

地域をつなぐ高速道路整備で 元気な地域社会づくりを

Efforts of Enterprises ✗ **The future of Tohoku**

東日本高速道路株式会社



4車線化工事が完了した常磐自動車道山元一岩沼IC間の阿武隈大橋付近。今年3月6日より4車線通行が可能となりました。安全性向上による交通事故の減少や渋滞緩和など、さまざまな整備効果が期待されています。

1966年の予定路線決定から49年、2015年3月に全線開通した常磐自動車道は、地域をつなぐ復興のシンボルとして大きな話題を呼びました。しかし、全線開通により交通量が増大し、暫定2車線区間では速度低下によるサービス水準の低下や事故発生リスク、復興事業の本格化に伴い、

老朽化や大型車両の増加などにより傷んだ高速道路において、橋を架け替えるなどの大規模なリニューアル工事を進めています

なることから、円滑な交通の確保につながります。
今年2月27日から、いわき中央ーいわき四倉IC間の一部区間（約8キロ）、3月6日から山元一岩沼IC間（13・7キロ）の全線で、4車線運用が開始されました。いわき中央ー広野IC間の残る区間についても、一日も早い完成に向けて工事が進められています。地域経済、地域社会を支える基幹道路としての常磐自動車道に、今後の期待が高まっています。

JR東日本などの関係機関と連携した「旅しよう！東北6県スマホスタンプラリー」や「ハイウェイフェスタ」とほくなどの地域と連携したイベント開催など、高速道路事業を生かした地域社会の活性化や観光振興の取り組みも行っています。これらの社会的使命を着実に果たしながら、地域社会と共に「つなぐ」価値を創造し、持続可能な社会づくりに取り組みます。

また、宮城県区間では、元一岩沼IC間が4車線化されることによりサービス水準の向上が図られ、並行する国道6号の渋滞緩和も見込まれています。その他、暫定2車線の場合、通行止めでの作業となるざるを得なかつた交通事故の復旧作業や道路の維持補修工事などが、4車線化により

誕生からおよそ半世紀が過ぎ、大型車交通量の増加、車両総重量の増加、凍結防止剤の散布などにより、高速道路の老朽化が進行しています。安全・安心を次の世代へつなぐために、橋やトンネルなどの大規模なリニューアル工事を実施しています。また、激甚化・頻発化する災害に対応した強靭な高速道路を構築するため、構造物の耐震性能を向上させる

地域社会の発展と暮らしへ
向上を支え
安全・安心を次の世代へ

A collage of various travel and tourism-related images from Tohoku, including traditional performances, aquarium scenes, and local delicacies like ramen.

並行する国道6号の慢性的な渋滞が発生するなどの課題が

東日本高速道路が管理運営する「常磐自動車道」は、2015

年3月に全線開通し、関東と東北地方の産業・経済・観光などの発展に重要な役割を担っています。16年より順次4車線化・付加車線事業が進められ、地域社会の発展と暮らしの向上など、更なる復興・創生への貢献が期待されています。

関東、東北地方と、新潟県、
北海道の高速道路を管理運営
する東日本高速道路（NEXCO
東日本）は、高速道路のプロ
集団として24時間、365日、
休むことなく安全・安心・快
適・便利な高速道路空間を提
供しています。

部区間の4車線化・付加車線事業が着手されました。

 NEXCO 東日本

東日本高速道路株式会社
<https://www.e-nexco.co.jp/corp/>